



# 会津大学 後援会だより

第 29 号

発行：会津大学後援会（事務局 学生部学生課）  
 発行日：平成 25 年 3 月 1 日  
 住所：〒965-8580 福島県会津若松市一箕町鶴賀  
 電話：0242-37-2515 (FAX 0242-37-2526)  
 URL : <http://www.u-aizu.ac.jp>



## 学長あいさつ

会津大学長

角山 茂 章

萬里猶此隣（良い心を持つ者、四海を志さば、あたかも隣家のようなものだ）」もあります。この二つの言葉は、20周年を迎える本学の教員や学生の皆さんにとって今でも学ぶべき価値ある言葉であろうと思います。

本学学生の多くは、大学を選択する時、心中では大学で成長する自分の姿と、大学を卒業した後の自分の姿を思い描いて本学に入ってきたことだと思います。会津大学の教職員は、その強い思いに最大限応えようと努力しています。今は世界中で社会と産業の変革期であり、日本が、そして学生諸君が将来豊かな生活を送るために、従来とは異なる知的な生産性をあげる能力が必要になっています。このような状況の中で、情報技術は多くの産業分野の中で、生産性が最も高い分野であることを国の統計が示しています。本学は、幸いにもその情報技術を専門にする大学なので、本学で学んでいる学生諸君は多方面にわたる知的成長と、皆さんの将来を保証する知的体力を育成する環境の中で過ごしていることとなります。

一方、皆さん気が気になされているであろう学生の就職状況に話を移します。韓国出身の Paik, Incheon 上級准教授に韓国の状況を聞いてみました。韓国では皆さんが良く知っているサムスンや現代自動車には、韓国の大学出身の学生は 2、3 割程度しか入れないそうです。こういう韓国の有名企業に入るには、米国などに留学し、米国から就職試験を受けた方が、合格率がずっと高いそうです。

日本はそれほどではありませんが、グローバルな時代の変化は確実に来つつあります。情報技術産業は、前述のように全ての他の産業を超えて日本の経済を引っ張っている中核の産業です。ご存じのように、近年スマートフォンやタブレット端末を中心に技術革新が進み、その市場規模は全産業の約 1 割、100 兆円と、自動車などの輸送機械や家電などの電気機器を抜いて、今や日本の主要産業の中で最大です。インターネット電話「スカイプ」の創業者が、昨年の講演で「日本では、工場型の大企業には関心が低く、ベンチャー中心の IT 産業に関心を持っている」と語りましたが、企業のグローバル展開の中で、日本の産業構造が世界の中で如何に変化しつつあるかという方向性を明白に示した発言だと思います。スマートフォンの基本ソフトの OS は、アンドロイドで代表されるようにバージョンアップが多く、ソフト開発には基本ソフトから応用ソフトまでの多様な知識が要求されます。一方、アップルやグーグルの OS に対抗して、欧州や日本勢が新たな OS「タイゼン」を開発する動きもあり、競争は熾烈になっています。そのような環境の中で、本学の教育はどの様な位置づけになっているかと言うことをお考え頂きたい。昨年 5 月のモスクワでの「正義のハッカー」国際大会で、本学学生が日本の学生チームを率いて、見事 9 位に入賞し、NHK で大きく取り上げられました。それは本学の教育が、OS レベルの基礎からスマートフォンのアプリまで、計算機の隅々までを UNIX ベースで行っているからです。高度なセキュリティを計算機上に展開するにはそのような幅広い知識が必須であります。このような本学の高度な教育を受けた卒業生に注目して、多数の情報技術関連の企業トップが本学を訪問することが増えています。

ところで、前述の韓国の例で述べたように、日本企業においても人材を選ぶ目は大きく変化し、日本人、外国人の区別をつけて、良い人材を求める動きが出ています。グローバルな時代に企業が望む人物像が大きく変わるものも当然です。一方、日本社会は「内向き志向」と言われ、留学よりも就職活動に時間を掛けてしまい、かえって企業が求める人物像と学生諸君の実像が乖離してしまい、企業が外国人の採用を増やし、日本人学生の就職市場を却って狭めてしまっているのが現状だと思います。つまり、大学自体の教育内容がグローバルにならないと、世界からの要求に十分応え切れず、日本の大学で教育を受け努力して卒業しても、韓国のように就職できる可能性が狭まる可能性が増えつつあるということだと思います。秋入学で国際性を高めようという議論がありますが、日本の大学の課題は教育内容そのものにあると思います。会津大学は、教員の約半分は外国人で、日本人の教員と融合した ACM 準拠の国際性の高い教育を進めています。本学の学生は、日本に居ながらにして、グローバルな視点での知識と異文化習得の環境の中で勉学に励んでいます。自信を持って、就職活動に臨んでくれると思いますので、是非応援して下さい。

本学は、この正月に経済産業省から東北地方の復興・発展を進める産学連携促進拠点として認定されました。選ばれたのは 4 国立大学と会津大学で、公立大学としてただ 1 校、本学が選ばれました。今後、拠点を構築するために、行政機関、国内外の IT 関連企業、会津大ベンチャーを中心とした県内企業と連携協力し、先端技術の実証や人材育成を進めるグローバルレベルの拠点として中心的な役割を担い、国際的競争力のある新たな IT 関連のビジネスモデル、更には新産業創出の拠点に本学は成長していく予定です。会津大学はトップダウンという個性ある教育を行っています。このトップとは世界レベルの研究を意味し、ダウンはその内容を早くから学生に習熟させることを意味しています。本学が国際 IT 研究教育の拠点に選ばれたということは、益々学生に伝える研究内容の質が高まることを意味していますので、教育面でも大きな効果が期待できます。

最後になりますが、東日本大震災後の復興に貢献する本学の活動がグローバルにファンディングビジネスを展開する米国 COACH 社及び様々な社会貢献を進めているリバースプロジェクト社の目に留まり、復興と絆を表現したオブジェを COACH 社から昨年 12 月に寄贈を受けました。オブジェは COACH 社が扱う製品の革からできており、数学的な閉じた軌跡をかたどっています。この形は数学用語でトーラスと呼ばれていることから、オブジェは「トーラスノット」と名付けられました。それは連帯を現した空間であり、本学にとっては国から高い評価を受けた国家プロジェクト「はやぶさ」が目指した宇宙のような広大な空間に通じるものと思います。本学のグローバルな活動が世界にも評価されているということだと思います。

今後も、本学は未来に向けて力強く進もうとしていますので、後援会の益々のご支援を頂けますようお願いいたします。

## 東北地域のグローバル IT 拠点として

平素より後援会の皆さんには多大なるご支援をいただきありがとうございます。平成 25 年は本学にとって開学 20 周年に当たる年です。開学 1 周年の際は司馬遼太郎氏が、中央主導でなく設立され情報科学のみを志向するという個性ある本学に強い関心を持ち、その記念講演で、「コンピュータを三国志時代に戦場を疾走する一輪車としてとらえ、常に歴史観と大局観を持って謙虚に世界を学び続けなければならない」と話してくれました。また、学生への訓示では、しばしば熱く語った言葉である中国の詩聖・曹植の言葉、「丈夫志四海、

## 平成 24 年度後援会事業報告

会津大学後援会では、学生の健全で快適な学生生活を支援するため、福利厚生事業、学生会・学園祭実行委員会への助成、就職活動支援など様々な事業を実施しており、本年度は下記のとおり事業を行いました。

### 1 スキルアップ奨励事業

学生のコンピュータの専門知識及び語学力の向上を図るため、情報処理技術者試験の合格者及びTOEICの高得点獲得者に奨励金を支給しています。

平成 25 年 1 月 31 日現在における本年度分該当者は次の方々です。

#### 〔情報処理技術者試験〕

渡邊翔平（4年）、村澤政成（4年）

#### 〔TOEIC〕

##### 600 点以上

伊黒裕貴（1年）、照沼直樹（2年）、古谷翔太（3年）、桑名恵子（3年）、宮下元希（3年）、小林稔（3年）、佐藤周平（3年）、澤井秀仁（3年）、赤間裕平（3年）、高橋瑞樹（3年）、Nguyen Van Duc（3年）、Vo Tuan Dung（3年）、佐賀美直人（4年）、塩沢京平（4年）、岡田純（4年）

##### 730 点以上

下國友也（1年）、金田淳（3年）、橋本有理香（3年）、Tran Ngoc Anh（3年）、Luong Anh Duy（4年）

##### 860 点以上

岩淵康平（4年）

### 2 大学祭協賛行事

10月の大学祭の開催に合わせて、後援会事業として保護者向けの下記事業を実施し、多くの参加をいたしました。〔10月6日（土）開催〕

#### 〔会津大学報告会・就職講演会〕

会津大学報告会では、東原恒夫学生部長から「会津大学の近況について」というテーマで教育、就職について講演を行いました。また、就職講演会では株式会社リクルートの木下哲夫氏を講師に、最近の就職環境、就職活動中の学生本人に対する親としての心構えとコミュニケーションのあり方などを内容とする講演を行いました。（参加保護者約80名）

#### 〔修学相談会〕

学生部長はじめ、学内の関係教職員による、修学や進路、生活、心身の健康の問題に関する個別相談を行いました。（23組）

### 3 情報処理技術者試験送迎バス

情報処理技術者試験の受験者の利便を図るために、大学から試験会場である日本大学工学部（郡山市）までの送迎バスの運行を4月15日（利用数97人）、と10月21日（利用者数148人）の2回行いました。

### 4 就職活動交通費、宿泊費補助事業

首都圏等、遠方で就職活動をすることが多くなる会津大学生に公共交通機関の利用に伴う交通費と宿泊費を補助する就職活動交通費、宿泊費補助事を実施しています。これまで交通費が学部4年生101人（平成25年1月31日現在）、宿泊費が学部4年生47人（平成25年1月31日現在）から申請があり、それぞれ上限1万円まで補助しました。

### 5 朝食定期券助成

学生の健全な食生活の維持の向上を目的に「朝食定期券」の販売を食堂と協力し購入費の一部を助成しました。今年度の利用者数は昨年度を大きく上回りました。より多くの学生が大学で朝食をとり講義に臨んでいます。

※利用者数 延べ209人。



### 6 クラス活動補助事業

教員と学生同士の日常的な結びつけを強め、常に気軽に相談し合える環境を作るため、クラス単位の活動について、食事会、レクレーション活動に係る経費を助成しました。

※利用クラス数 延べ8クラス。

## 就職活動状況について

### 〔就職活動状況〕

厚生労働省が、平成 25 年度卒業予定者の大学生の全国の就職内定率は、12 月 1 日現在で前年同時期に比べ 3.1 ポイント増の 75.0 % と発表しました。昨年度はこの調査を始めた 1996 年以降で最低の数字でしたが、昨年度、今年度と回復傾向にあります。

### 〔会津大学就職内定率：平成 25 年 2 月 12 日現在〕

		進路希望	決定者
就職	民間企業	153	132
	(就職内定率)	86.3%	
	教員	11	3
	公務員・団体等	5	4
	起業・家業	2	2
	合 計	171	141

		進路希望	決定者
進学	本学大学院	59	59
	他の大学院	5	2
	海外の大学院	0	0
	合 計		64 61

### 〔就職支援〕

進路ガイダンス及びキャリデザインⅡでは、学部 3 年生を対象に外部講師による進路選択、エントリーシートの添削や筆記試験対策、模擬面接など、より実践に近い就職支援を行っています。

また、「就活カフェ」に参加することで、就職活動本番を迎える学部 3 年生は、既に内定を獲得した学部 4 年生に、就職活動の分からぬ事、聞きたい事をなんでも聞くことができます。

〔公開模擬面接の様子〕



〔就活カフェの様子〕



### 〔学内合同企業説明会〕

学内での合同企業説明会を 12 月から 2 月までの 3 ヶ月間に計 8 回実施しました。

通常、学生は東京などに交通費と宿泊費をかけて企業説明会に参加しなければならないところ、東京など遠方から企業の人事担当者の方々がわざわざ会津大学まで足を運び、学生に企業の説明をしていただいています。

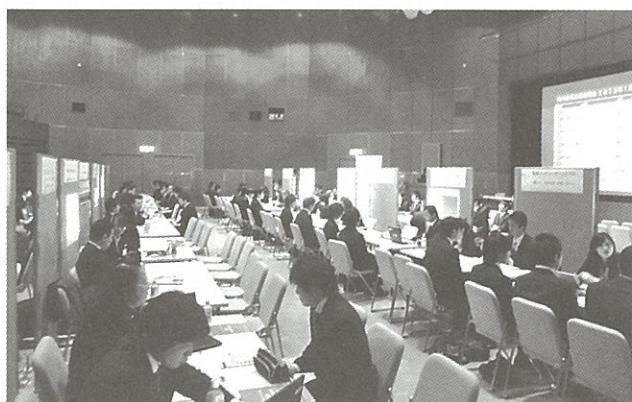
県内外の企業に参加いただき、参加企業数が合計 174 社と過去最多になりました。学生は、テーブルで真剣なまなざしで人事担当者の説明を聞いていました。

このほか、企業が個別に説明会を実施する個別企業セミナーを随時開催しています。

〔食堂で開催した合同企業説明会の様子〕



〔県内企業による合同企業説明会の様子〕



## 学内ニュース

### 会津大生が東北復興 IT ビジネスプランコンテストで決勝戦へ

11月16日（土）、ITビジネスで東北復興の実現を目指す「ビジネスプランコンテスト in 東北」（Mobile Creators Summit 主催）の福島予選が会津大学で開催されました。上位3組を会津大生が独占し、来年の決勝戦に進出します。

このコンテストは「東北から世界へ～スマートフォン・ソーシャルサービス・ソーシャルビジネス」をテーマに、福島・宮城・岩手の3県に在住する方々のアイデアから、新たな産業、雇用を生み出すインターネットビジネスプランの事業化をサポートする試みです。

福島予選には、学部の講義「ベンチャー体験工房 10」を受講する学生をはじめ、県内の専門学校や企業からのエントリーがあり、ビジネスモデルの提案を行いました。優勝は岡本拓也さん、古沢宏太さん（共に学部3年）の『あなたの物語（日記）自動生成サービスの提案「Hansel」』です。準優勝と第3位には工房10から参加した個人、チームがそれぞれ選ばれました。地域活性化と復興支援に向けたビジネスソリューションの企画、検討と実践を目的に、コンテスト出場を視野に取り組んできた工房10は、その活動の成果が発揮されました。

決勝戦は来年2月下旬から3月に東京での開催が予定されており、福島・岩手・宮城予選を勝ち抜いたチームにより行われます。会津大から出場する3組は、決勝に向けたプランのブラッシュアップ、プレゼンの準備を進めています。

順位	氏名（学年）	プラン名
優勝	岡本拓也、古沢宏太（学部3年）	あなたの物語（日記）自動生成サービスの提案「Hansel」
準優勝	長坂 卓（学部2年）	スマートデバイスと用いた復興支援アプリ「Places」
第3位	谷川知子、松永百合貴、仁平大地（学部4年）	ゆるキャラでもっと地域を知ってもらうアプリ「もあもあ」

### 会津大学の海外派遣留学支援事業

#### <平成24年度実績>

	研修期間	派遣学生（派遣時学年）
海外短期派遣	平成25年3月【3週間】（予定） (ローズハルマン工科大学：米国)	田茂井圭祐（学部1年）、関口有加里（学部1年）、北澤 拓也（学部2年）、松本 剛征（学部2年）、石黒 駿介（学部2年）、金田 淳（学部3年）、赤間 裕平（学部3年）
JASSO 奨学金	平成24年8月～平成25年7月（予定） (ローズハルマン工科大学：米国)	須田 亮平（修士1年）
	平成23年12月～平成24年7月 (マーサー大学：米国)	橋間 浩嗣（修士1年）

#### <研修報告> 大野 綾香さん（平成23年度海外短期派遣研修 ローズハルマン工科大学）

<大野さん 写真左>

会津大学に入学してから留学生と交流する機会が多く、次第に留学したい気持ちが強くなりました。3週間の研修を通して感じたことは、学生が意見しやすい環境の授業形態や、少しでも疑問に思うことがあるとすぐに質問する学生の積極的な姿勢に、日本との大きな違いを感じました。

今回の留学で英語の発音、文法の大切さ、コミュニケーションの難しさを学ぶと同時に、文化の違いや考え方の違いを感じることができ、実りある研修になりました。留学したことにより英語が話せるようになりたいと強く思ったので、二度目の留学も視野にいれて、これからいっそ英語の勉強に力を入れていきたいと思います。



## 会津大学 教員紹介



### 「宇宙は近い！」

先端情報科学研究センター (CAIST) 助教 寺薗 淳也  
宇宙情報科学クラスター

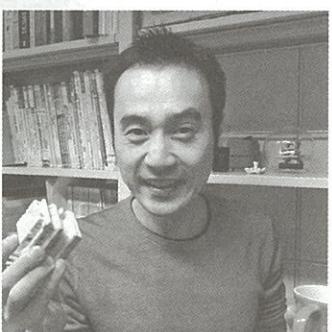
2010 年 6 月の「はやぶさ」帰還は、日本中に感動の嵐を巻き起きました。20 年近くこの計画に関わってきた私にとっても、帰還時の盛り上がり、そしてその後の大ブームはこれまでに経験がないことでした。まさか私自身が映画会社の方とお仕事をすることになるとは思わなかったですし。

私は、学生時代を名古屋大学で、大学院を宇宙研（宇宙科学研究所）で過ごし、その後、宇宙関連の財団法人で 12 年間仕事をしたあと、会津大学へ移って来ました。この 12 年間の間に、宇宙開発事業団と宇宙航空研究開発機構 (JAXA) へ 2 回、合計 5 年間出向しています。ただ、1 回目が技術研究部署への出向だったのに、2 回目が広報部への出向でした。研究者としてはものすごく異色の経験

かも知れませんが、そのため、一般の方が宇宙についてどう考えているのかということを、研究者の視点からみることができます。貴重な経験をすることができました。

私が JAXA へ出向していた 2003 年頃は、一般の人にとって宇宙というものは遠い存在でした。宇宙といって思い浮かべるのはまずは宇宙飛行士で、「私にはとてもなれないわねえ」という反応になってしまいます。宇宙旅行にしてもお金の話をすれば、これまた否定的な反応が帰ってくることが普通でした。ですが、「はやぶさ」はそのすべてをひっくり返してくれました。私たち自身が宇宙に行かなくても、宇宙の話題でこんなに感動し、楽しめる…そのような新たな視点を与えてくれたのです。

私たちの研究室では、宇宙関連のデータを地理情報システムというコンピューター上の地図で可視化する研究を行っています。私たちの研究室に入れば、宇宙関連のデータをいやでも扱わなければいけません。そういったデータは、「はやぶさ」や「かぐや」をはじめとする無人探査機が、私たちの分身となって取ってくれたものです。そして、データをより見やすくすることによって、研究者を中心として、多くの人々によりデータを扱いややすくなるというのが私の目標です。これもまた「宇宙を近くする」ための活動でもあります。学生さんたちが私たちの研究室で卒論として取り組む活動は、その 1 つ 1 つが宇宙をぐいと引き寄せるための試みでもあるわけです。今や宇宙旅行も個人に手が届きそうな段階になってきました。宇宙が近くなっていますが、もっともっと近づけたい…そんな思いが、私たちの研究を日々動かしています。



### 「ソフトウェアを育てる」

情報システム部門  
知性知識工学講座 準教授 吉岡 廉太郎

私はソフトウェアの作り方や使い方に関するソフトウェア工学という分野の研究と教育を行っています。

ソフトウェアというと何を思い浮かべるでしょうか？使いづらい、言うことを聞いてくれず振り回されてばかりと、恨み辛みをお持ちの方も多いことでしょう。それはひとまずおいて、ソフトウェアを作るということはコンピュータに物事を教えることだと言えます。コンピュータを人の役に立つ便利な道具にするには、何をして欲しいのか、どうすればできるのか、ということをコンピュータに教える必要があります。人の成長に例えると、ソフトウェアを入れる前のコンピュータは生まれたての赤ちゃんで、何も知らず何もできません。そこにソフトウェア

を入れて知識と能力を与えるのです。ソフトウェアを作るということは、親が子供を育てる事、先生が生徒を教えることと同じなのです。

でも、人を育てることとコンピュータに教えることには大きな違いがあります。コンピュータは極めて正確に動作しますが融通が利きません。また、勝手には成長しないので教えられたことしかできません。人ならば、応用する、行間を読む、暗黙の了解、想像など機転をきかせることができます。コンピュータの場合は、全てを詳細にかつ正確に記述しなければなりません。普段から、「それをこっちであれして」と相手の機転に頼ることに慣れている私たちにとって、コンピュータに理解できる言葉でソフトウェアを作ることは大変なのです。ちょっと乱暴ですが、要は人とコンピュータでは言葉も考え方も違うのです。これはとても大変な事で、情報技術産業が抱えている多くの問題の原因でもあります。

しかし、これはソフトウェアを作る難しさのほんの一部に過ぎません。会津大学の学生の多くはソフトウェアの作成に関わる仕事に就きます。そこでは、コンピュータの言葉についての技術力の他に、人の話を理解したり、説明したり、調整したりする人間力が重要だと言われています。その教育手法としてプロジェクト学習型演習 (PBL) を取り入れた授業が近年注目されていますが、会津大学では開学当初より実践していて、ここ数年でその内容を充実してきました。例えば、「ソフトウェアスタジオ」という授業では、実際にお客様から注文を受け、学生だけでソフトウェアを作成し納品します。お客様の話に耳を傾け、本当に役立つソフトウェアを作る経験からは多くのことを学ぶことができます。学生にはこのような授業も積極的に参加して人間的にも成長して欲しいと願っています。

## 会津大学 授業紹介

### 「大学生活をハッキング (IT 技術で良く変え) しよう！」

科目名 ベンチャーワークス工房 8  
テーマ 「ハッカソン型アプリケーション企画開発」  
担当教員 准教授 矢口 勇一

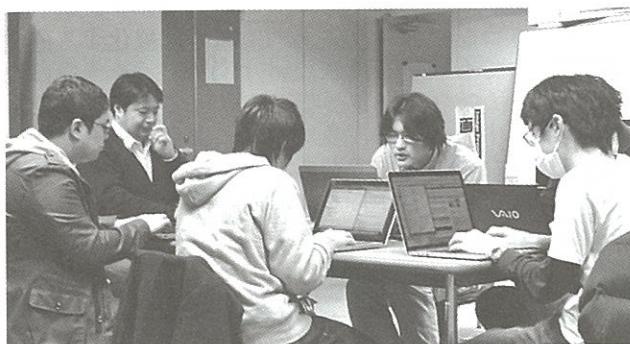
ベンチャーワークス工房 8『キャンパスハッキング』では、学生 9 名と TA2 名、教員 1 名の 12 名で、IT ベンチャーの基礎でもありお祭りでもある『ハッカソン (Hacking + Marathon)』的なソフトウェアやイベントの企画・開発を行う授業を、この 4 月から進めてきました。

今年度は、『震災で減少傾向にある大学の志願者数を、どうやって増やすように出来るか?』と言うテーマについて、学生達が熱い議論を交わし、2つのプロジェクトがここから立ちあがりました。

1 つ目は、学生生活の華である『サークル活動』をもっと良く知らうための、『べこまる : サークルブログホスティングシステム』です。2 つ目は、大学では切っても切り離せない研究室の今を伝える『ラボけん！ : 研究室映像コンテンツ作成・配信』でした。

会津大ではソフトウェア開発の手順等、IT 技術を用いたシステムを組み上げるのには長けているのですが、特に『ラボけん！』の方は映像コンテンツの作成でしたので、工房の中だけでなく、他の研究室への取材等、本当に幅広い活動が必要となりました。

これらの活動を通じて、実際に使えるシステムやコンテンツとして、世の中に出せたという『成功体験』を、工房のみなさんが味わえたと思っています。



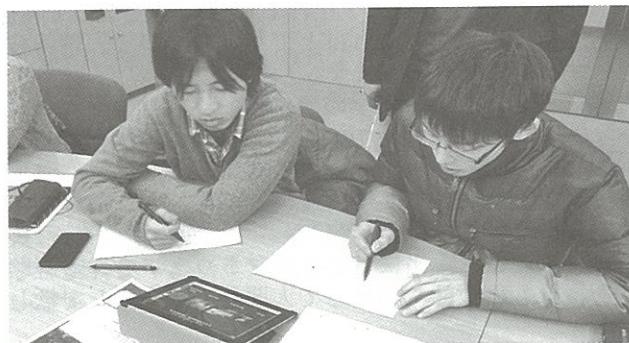
### 「ビジネスアイデアで地域を盛り上げる」

科目名 ベンチャーワークス工房 10  
テーマ 「アイデア創出、地域貢献プロジェクト」  
担当教員 教授 程 子学、准教授 王 軍波

ベンチャーワークス工房 10 は、地域の活性化と復興の支援に向けたビジネスソリューションの企画・検討および実践を目的として開講しました。具体的には、ビジネスアイデアのコンテスト出場、地域の商店、会津の特産品の PR・商品開発、スマホアプリについて、アイデアの発想やコンテストの出場等の活動を行っています。写真は授業中の学生たちの様子です。本工房は、学生が主体となって活動しているため、とても活気があります。お互いに意見を出し合いながら、あらたなアイデアを生み出していくます。近年テレビや雑誌などでも取り上げられているベジメルバーガーは、この工房の卒業生の方たちが考案し、地域の企業や西会津町の協力を受け地域特産品のプロモーション企画として開発したご当地バーガーです。

今年度は Mobile Creators Summit 主催のビジネスコンテストへ出場し、予選では第 2 位と第 3 位に入賞という実績を残しました。現在は、決勝大会にむけて 2 つのチームに分かれ、活動に熱が入っています。

本工房は、平成 19 年度より活動を続けています。学生たちが代々引き継ぎ、この活動が会津大学、また地域に根付いたものとなるよう願っています。



## サークル紹介

### 起業部

はじめまして、起業部です。弊部は部員それぞれが、ビジネスに関心を持ちその情報を交換しあうプラットフォームとして昨年に設立されました。まず、定期的に行なってきた活動は、ビジネス関連書籍を囲み碎いて紹介するというものです。この発表会は外部にも公開しており、書籍は担当者が自由に選び、プレゼンテーションをするという活動です。トピックとして「起業精神論」、「組織のマネジメント」、「プレゼンテーションノウハウ」等が挙げられ、活発な議論が行われています。

そして、実際の経営者を招いての勉強会や講演会を行うことで基本と応用の差を確かめることを目的とし「ローカルプレナーカンファレンス」という会を開催しました。目的とした名目だけでなく、他大学の起業志望者達との交流も深まるところでビジネスに関する知見を深めさせて頂きました。

また 2012 年 9 月には、The Second TAC-Keio SFC Entrepreneurship Seminar and Business Plan Competition に参加させて頂きました。この大会では 4 年生の 2 名が大会の企画・運営に参画し、2 年生を中心とする新メンバーがプランを出展させて頂きました。大会は 5 日間にかけて開催され、世界でビジネスをしている方の講演やワークショップ、全国から集ったライバル達との意見交換が行われました。

私達はこの様に「外へ、外へ」と活動しており、色々な出会いや学びがあり、今期も充実させることができました。



### 水泳部

こんにちは、会津大学水泳部です。水泳部は会津大学にある屋内の温水プールで毎週、月、水、金の三回練習しており、一年中活動しています。部活には初心者から経験者まで幅広い層がいるため、部員一人一人の能力に合わせてコースを分けて練習しています。そのため、部員それぞれが目標に向かって邁進し楽しく充実した練習を行っています。水泳は個人競技ですが、練習では部全体で士気を高めて活動しており結束力が強く、とても良い雰囲気の中練習をする事ができます。

私たち水泳部は、東日本大震災の経験を経て県内の大学との交流や連携、繋がりという事がとても大事である事を感じました。そのため県内の大学を集めて交流戦を多く行い情報交換を密にし、一緒に福島を盛り上げていこうと考えています。その一環として、夏には猪苗代湖で遠泳大会に参加し全国に福島が元気であることを発信しました。

私たち水泳部は、この会津大学の創立当初から部活が続いている、今年で記念すべき 20 周年を迎える事ができました。それに伴って、私たちは改めてこの年を迎える事ができたのも、多くの方々の支えがあったからだと再認識しました。そこで、これからも多くの方々に感謝しながら部活を行っていきたいと思っています。

この水泳部を通して泳ぎが速くなるだけではなく、多くの方々と出会い、自分の視野を広げ、かけがえのない仲間をつくることができる部活を目指していきたいと考えています。これからもよろしくお願いします。



## 保護者の方へ ~お知らせ~

### 後援会事務局からのお知らせ

#### 〔卒業記念パーティー〕

本年度の学位記授与式が3月22日(金)午前10時から講堂で行われます。後援会では、これを記念するとともに、これまで指導いただいた教員の方々への感謝を込めて卒業パーティーを開催します。保護者の皆さんには、ぜひ御出席くださいますよう御案内いたします。

- 日 時 平成25年3月22日(金) 12:20~
- 場 所 会津大学学生ホール1階 学生食堂
- 会 費 卒業学生及び保護者ともに無料

#### 〔開学20周年記念事業について〕

会津大学は平成5年(1993年)に開学し、平成25年4月に開学20周年を迎えます。開学から一つの節目の年に際して、本学のさらなる飛躍に向けて、福島県の復興はもとより、日本ひいては世界の発展にどのように貢献できるかを内外に示す絶好の機会と捉え、開学20周年記念事業が実施されます。

後援会としましては大学及び同窓会と一緒にとなって、開学20周年記念事業を盛り立てていきたいと考えており、以下の2つの催物を実施する予定です。具体的な内容につきましては、次号(平成25年7月発行)及び開催案内によりお知らせいたします。会員各位のご協力をよろしくお願い申し上げます。

#### ○後援会・同窓会共催20周年記念講演会

平成25年10月12日(土)午後開催予定

#### ○後援会・同窓会共催20周年記念パーティー

平成25年10月12日(土)午後開催予定

※10月12日・13日(土・日)は大学祭開催中

### 学生課からのお知らせ

#### 〔卒業記念アルバム〕

卒業アルバムは、(株)メディア出版新潟支社が作成し、直接予約を受け販売しています。

なお、作成にあたっては、会津大学学生課が写真撮影の手配等について協力を行っています。

詳細につきましては、同封いたしました案内にてご確認をお願いいたします。

#### 〔成績表の保護者への送付〕

学生課では、保護者の皆さまへ単位修得状況と1年間の成績表を、毎年3月中にお送りしています。

4月上旬までに届かない場合は、学生課教務係(電話0242-37-2600)にお問い合わせください。

#### 〔転居等による住所の変更〕

保護者あての送付物が「転居先不明」で戻ってくる事例が多く見受けられます。転居等で住所が変更になった場合は、学生課に「保護者住所変更届」をご提出くださいますようお願いいたします。

## 平成25年度会津大学教務日程(予定)

在学生履修登録期間	3月11～14日
入学式	4月2日
新入生オリエンテーション	4月3～5日
健康診断	4月4～5日
前期授業開始	4月8日
内科検診	5月22～23日
前期試験	7月30日～8月9日
夏季休業	8月12日～9月30日

在学生履修登録期間	9月10～13日
後期授業開始	10月1日
蒼翔祭	10月12～13日
冬季休業	12月24～1月3日
後期試験	2月4日～2月14日
卒業論文発表会	2月17～18日
春季休業	3月3日～31日
学位記授与式	3月20日